

看護経験年数による表情認知能力の変化

○門脇加江子・前川亮・乾敏郎
(追手門学院大学大学院心理学研究科)
キーワード: 表情認知 経験年数 看護師

Performance in Facial Emotion Estimation Based on the Number of Years of Nursing Experience

Kaeko KADOWAKI, Toru MAEKAWA and Toshio INUI
(Graduate School of Psychology, Otemon Gakuin University)
Key Words: emotion estimation years of experience nurse

目 的

教育や医療福祉分野の対人援助職者にとって、他者の表情からその感情状態を推定することは、職務上きわめて重要な能力である。顔の認知において個人差はなぜ生じるのかという研究が進みつつあり、前川(2017)、山添(2017)はそれを共感性や性差によって説明している。本研究では、職業経験が表情認知能力に影響を与えるという仮説のもと、看護職者への表情認知実験を行った。

方 法

【参加者】複数医療機関の内科系病棟に勤務する看護職者で、看護職経験通算9年以上の者16名(平均39.4歳、平均従事年数16.1年、女性14名、男性2名)、5年以下の者18名(平均26.3歳、平均従事年数2.4年、女性13名、男性3名)および一般大学生(18名、平均20.3歳、女性7名、男性11名、看護学専攻者でない)。参加者の中で、応答時に左右のボタンを押し間違えた3名(9年以上1名、5年以下2名)は分析から除外した。

【刺激】呈示画像は京都大学こころの未来研究センターの表情画像データベース(2013)から、男女各2名の顔画像を選択した。各モデルの中性⇄怒り、および中性⇄幸福画像について、モーフィング率0.11刻みで、それぞれ9段階のモーフィングをおこない、合計76枚の画像を作成した。

【手続き】参加者はPCに呈示される刺激画像を見て、怒り、無表情、笑顔のいずれかを回答した。画像呈示は上下法、折り返し回数5回、4系列同時実施とし、1人あたり約200試行(10~15分程度)を行った。

【解析】参加者の応答から、 x をモーフィング率(中性⇄怒りまたは笑顔、0⇄1)、 y を応答率(0~1.0)として、ロジスティック累積分布関数

$$y = 1 / (1 + e^{-(\alpha + \beta x)})$$

をあてはめ、最尤法で回帰した(図1, 図2)。閾値を $-\alpha/\beta$ 、感度を $\beta/4$ とし、看護職9年以上、5年以下、大学生の3群で分散分析をおこなった。

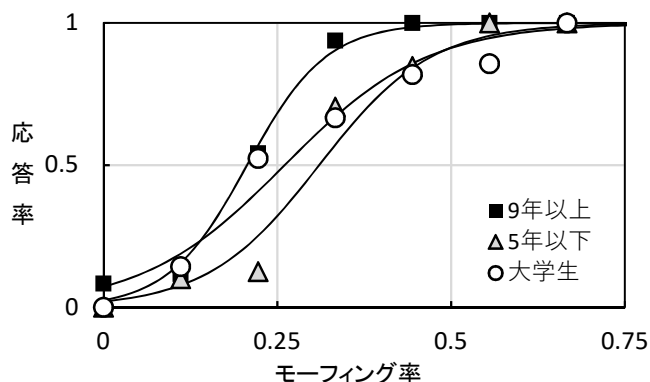


図1. 怒りの表情認知 (各群の中央値3名)

【男女差】表情認知における性差の影響について、大学生男女間の t 検定をおこなった。その結果、閾値、感度ともに有意差を認めず、大学生全員を分析対象とした。

結 果

【怒り表情の認知】閾値は、参加者群の有意な主効果が確認された($F(2, 46)=6.393, p=0.004$)。そこで Bonferroni 法により多重比較を行い、9年以上と5年以下($p<0.01$)および9年以上と大学生($p<0.05$)の間に有意な差が見られた。一方、感度には有意差はなかった。

【笑顔表情の認知】閾値は、参加者群の有意な主効果が確認された($F(2, 46)=4.936, p=0.011$)。Bonferroni 法による多重比較で、9年以上と5年以下に有意な差を認めた($p<0.01$)。感度においても、参加者群の有意な主効果が確認された($F(2, 46)=3.405, p=0.042$)。Bonferroni 法での多重比較の結果、9年以上と5年以下で有意な差を認めた($p<0.05$)。

考 察

怒り表情の認知において、9年以上の看護職は、5年以上および大学生に比べ、少しの表情変化でも弁別することが示された。一方、笑顔表情は怒りと異なる傾向を示した。9年以上の看護職が、5年以下と比べ閾値が低いことには変わりはないものの、9年以上と大学生との差はなくなった。さらに5年以下の看護職の方が大学生より年齢が高いが、笑顔閾値は大学生の方が低かった。これらより、表情認知能力に影響を与える要因は、年齢より職務経験が重要である可能性が示された。看護職は入院患者に接することが多く、笑顔判断の機会が少ないことが影響している可能性がある。

引用文献

山添・前川・朝倉・乾(2017)。日本認知心理学会第15回大会発表論文集。

前川・成山・朝倉・乾(2017)。日本認知心理学会第15回大会発表論文集。

謝辞 本研究はトヨタ自動車株式会社との共同研究の一貫として行われたものである。

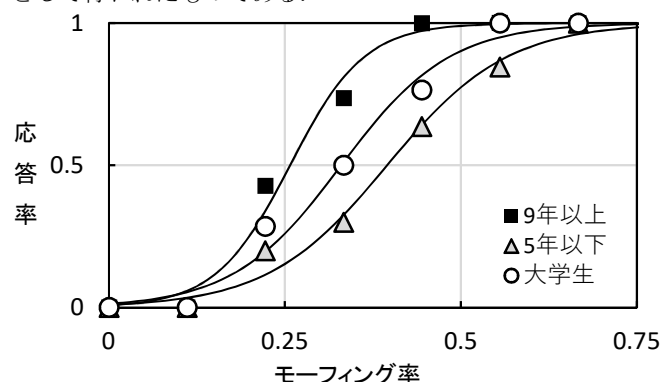


図2. 笑顔の表情認知 (各群の中央値3名)